

この40年の業界の歴史も紐解かれました。第15回 特別講演会報告

4校開校に至るまでの40年で出会った人、知り得た経営手法 **アイルモータースクールグループ 代表取締役社長 小森 弘詞**

始まりは無事故交通社会の勉強会「ランド・ナトラス」だった

大学を卒業し、家業の豊前自動車学校に入社して47年経ちました。現在は、アイルモータースクールグループとして、豊前、門司、下関、博多の森の4校を運営しています。

思い起こせば、40年ほど前、無事故交通社会の研究開発を目的とする「ランド・ナトラス」に入会し、そこでコヤマドライビングスクールの小山会長と初めてお目にかかりました。月に1度、東京で開かれる勉強会に参加し、多くの先輩からたくさんのお話を学び、その後の私の基礎がここで作られました。この会は1977年から85年まで続きましたが、「指導員をいかに育てるか？」がその中の大きなテーマのひとつでした。

ピンチをチャンスに変えたリーマンショック

リーマンショックの頃、債務超過と後継者不在によって後を引き継ぐ会社を探していた関門と門司の2校を頼まれて引き受けました。

「社長、ピンチはチャンスです」。この頃社員に言われた言葉です。この時期は当社にとっても厳しい時期でしたが、ここで頑張ったおかげで今があると思っています。その後この2校を合併させ、現在は年間2,000名以上の卒業生を送り出しているのです。今後の自動車学校の経営において、合併は一つの有効な手段なのではないでしょうか。

上下の別なく、全員が発言する経営会議

毎年、経営会議を行っており、今年で10回目になりました。社長から事前に発表された経営方針に従い、各自、目標などを発表しています。この会議はパート社員も含めて、全員参加。1人最低3分間、全員が発言します。社長以下全員が全員の発言を聞きます。日頃から、上司だけでなく、同僚の話にも耳を傾けるよう指導しています。

社員が開発した装置も続々。体験型の装置を積極的に導入

当社の社員は日頃から、安全教育のための実験や研究を熱心に行っており、体験型の装置も積極的に導入しています。

◆**シートベルトコンベンション** シートベルトをした状態での衝突の衝撃を体験できる装置で、ランド・ナトラスが設計したものです。傾斜の上にある座席が前方へ滑り出し、壁にぶつかり停止します。当社ではシートベルトが義務づけられる前から導入していますが、速度はたいしたことなくても、強い衝撃があることに、体験者はみな驚き、シートベルトの大切さを実感するようです。

◆**エアバッグ体験機** ハンドル内のエアバッグをガスによって強制的に開かせる装置で、開く時の音などを体験できます。こちらは当社社員の手作りです。安全教室などで使用しています。

◆**転倒くん** 横倒し逆さまになった車両からの脱出体験装置です。古いボンネットトラックの荷台に軽自動車を取り付け、コンクリート

ミキサーのように回転させます。体験者には軽自動車の運転席でシートベルトを外してもらうのですが、これが難しい。角度が180度の場合はまだ、なんとかできるのですが、90度傾いた状態でシートベルトを外すのは苦戦する人が多いですね。また、外れた途端に身体が投げ出されるので事前に天井を手で押さえていなければなりません。この装置も当社の社員が設計したものです。

実験データと心理学の観点から交通教育を考える

当社では自ら、実験データを取り科学的裏付けのもと、交通教育の研究を続け、その研究成果を日本交通心理学会等で発表し続けています。研究の1例をご紹介しますと、停止距離測定装置を使い、時速40kmで走行し、赤信号の点滅が見えたら、ブレーキを踏み、その停止距離、制動距離を測る実験。これを指導員36名が5回ずつ実施。結果、時速40kmで走行するのは非常に困難であったということ。また、同じ速度での停止距離も個人差があり、同じ人でもばらつきがあることがわかりました。参加者からは「センサーを通り過ぎてから、ランプが点滅するように思えた。人の認知の遅れを実感できた」との感想が上がってきました。こうした様々な実験検証を実施し論文を作成・発表することで、経験則で行われがちな交通教育への提言を行っています。私は自動車学校というのは、もっと実験研究をすべきだと思っています。規制の範囲内であつてもできることはたくさんあります。

人材教育、交通研究が結果的に事業拡大に繋がった

故・後藤新平の「金を残すは下、事業を残すは中、人を残すは上」という名言がありますが、親しい人には「されど金なくて事業なり難く、事業なくして人育ち難し」と付け加えていたそうです。事業と人材教育は会社の両輪。当社の場合は社員教育と交通教育の研究を愚直にやってきた結果、まわりの方々から望まれて2校を引き受け、それによって会社は大きくなっていきました。そして相乗効果として、人材教育にも交通教育の研究にもさらに力を注げるようになりました。

懇親会は大接戦のクイズバトルとベリーダンスショー

講演終了後はお楽しみの懇親会。恒例のコヤマドライビングスクール長期研修生「轟会」メンバーによる対抗クイズでは、なんと5チームがトップに。サドンデスの結果、Aチームが優勝となりました。

最後は日本のベリーダンスの第1人者IKUYOさんと3人によるベリーダンスショー。華麗なダンスステージがお客様の目を釘づけにしました。



特別講演会に参加して

新たな学びの場を体感しました。

この度は素晴らしい学びの場を提供していただき、誠にありがとうございました。3年連続での参加となりましたが、今年も新しい学びがたくさんあった1日でした。

特に講演者の小森様の交通教育に対する熱い想いや、厳しいが故にチャンスがあるという考え方は、大変共感できました。

また、長年されている研究論文は大変レベルの高いもので、今後の教習におけるヒントが多々ありました。

弊社では現在、できるだけ社員発信で自発的に行動できるよう環境を整えています。まだまだ浸透しているとは言えず、模索しながら日々を過ごしております。小森様のように人材教育を第一に考え、

山口そうごう自動車学校(山口県) 代表取締役社長 田中 秀明

社員と共に成長できるよう、日々精進してまいります。

会全体の運営も素晴らしく、3年目の私でもとても楽しめる内容でした。さらに轟会メンバーの方々のパワーを改めて感じる事ができ、私ももっと頑張らないといけないと新たに決意した次第です。

懇親会では、全国でご活躍されている自動車学校経営者の方々と交流でき、情報交換しながら自社を客観的に見る事ができました。今回学んだ事を自社に持ちかえり、今後の経営に活かしてまいります。

